

# 発泡スチロールの現況

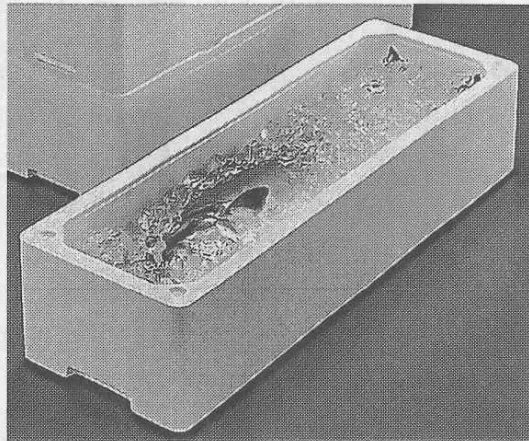
発泡スチロールは、ビーズ状のフォームスチレンビーズ(EPS)、シートロール状に押し出した発泡スチレンペーパー(PSP)、板状に押し出した押し発泡ポリスチレン(XPS)が国内における3大発泡スチロールとして緩衝材、食品容器、断熱建材等で社会に貢献している。

## 気候影響で箱物減

### 輸出向けは好調に

EPS  
変化における漁獲量の減少に伴う魚箱の出荷減少、天候不順等における野菜、果物等の収穫減少、農業箱の出荷減少などが影響し数量が若干だが減少した。2016年度のEPSリサイクルは90・2%と高率となり、マテリアルリサイクルが56%に達したことが特筆される。

国内出荷量は減少したが、東南アジア向けにりんご等の果実や野菜箱、魚などが保冷箱としてのEPS活用が増えており、輸出での好調さが際立った模様だ。



水産の魚箱用途

一方、家電緩衝材等の弱電分野向け出荷量は若干の落ち込みとなっている。業界が期待を持っている断熱建材分野は、『成形できる断熱材』として戸建住宅への施工を積極化させており、軟弱地盤や崩落現場へ敷き込む軽微の断熱性、緩衝性、軽量土工法は、実績数量を伸ばしている。JEPSAでは、EPSの啓蒙運動を続けており、EPS製品のPR活動を行っている。